

1 単元について

I : 【考え・基礎知識】

登場人物の行動や会話に着目して想像を広げながら物語を読む。

C : 【つながり】

お気に入りの絵本についての紹介の仕方を理解し、「おはなしたまてばこ」の人物カードや「お気に入りカード」を作る。

E : 【応用・ひろがり】

・保育園の友達にお気に入りの絵本を紹介する。
・お気に入りの本を増やす。

児童の実態

- ★ 自己中心的で自分の考えを聞いてほしい気持ちは強いが、互いの考えを聞き合って高めていくことはまだできない。 —①
- 1学期教材「とんことん」や「おおきなかぶ」では、役割を決めたり、動作化したりして楽しく読むことはできたが、大好きな場面を理由付けて友達に伝えることは難しかった。 —②
- 生活の中に読書を位置付ける「はらどくカード」の取組で、1学期の目標冊数36冊を達成した児童は95%である。 —③
- 読んだ本について自分の考えを友達や家族と交流している児童が少ない。
(本校各学力調査・児童質問紙より) —③

教材について

- 主人公や動物の優しさに触れみんなで難題を解決していく話である。
→1年生として、自分も周りの人に何かできることはないかを考えさせることができる。
- 登場人物が一人ずつ順番に現れて、話が展開していく。
→主語・述語の関係が捉えやすく、登場人物の行動や会話に着目して、想像を広げながら読み深めていくことができる。
- 同種の語句を重ねて、次第に表現内容が強調されている。
→ストーリー展開のおもしろさを感じ、自分の「お気に入り」やその理由を伝えたいという思いをもたせることができる。

育成したい資質・能力と目標 ★資質・能力 ○国語科

【自己理解・自らへの自信】

- ★ 読んできた絵本の中から自分の「お気に入り」の一冊を選んで、「おはなしたまてばこ」を作り、保育園の友達と関わりながら紹介することを通して、達成感や自信をもち、自分のよさや可能性に気付くことができる。
原小学校 資質・能力ルーブリック (レベル3)
- 自分のお気に入りの絵本を見付け、作品についての思いが伝わるように紹介しようとする。 【国語への関心・意欲・態度】
- ◎ 登場人物の行動や会話に着目して、場面の様子を想像しながら読むことができる。 【読むことウ】
- お気に入りの絵本を選んで読むことができる。 【読むことカ】
- 文の中における主語と述語の関係に注意して文章を読むことができる。
【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(カ)】

単元を貫く言語活動とその特徴

「保育園の友達に『おはなしたまてばこ』を作って、お気に入りの絵本を紹介する」言語活動を設定する。選んだ絵本に対する自分の思いが伝わるように紹介するために、玉手箱の中に何が必要かを考え、登場人物の絵カードやお気に入りの場面と理由が書かれた「お気に入りカード」を用意する。お気に入りの場面と理由を確かめるために、何度もお話を読み返し、登場人物の行動や会話に着目して想像を広げながら読み深めていける活動であると考え。

指導のポイント

- ① 自分のお気に入りの絵本を「見付ける」「紹介するために必要なものを考え、作る」「紹介する」という一連の活動に必然性をもたせる。
お気に入りの絵本を保育園の友達に紹介するという相手意識をもつことで、友達のお気に入りの絵本やその理由にも関心をもたせる。
- ② 「お気に入りカード」にはお気に入りの場面や理由の項目を入れ、「お気に入りことば」を例示しながら語彙を増やし、お気に入りの絵本への思いが相手に伝わるようにする。
- ③ 並行読書によって、お気に入りの絵本との出会いを増やしていく。また、友達と読書交流をすることで、お気に入りの場面や理由は様々であることに気付かせ、友達が紹介した本にも関心をもたせ、更なる読書への意欲を高める。

2 単元の評価規準

資質・能力 【自己理解・自らへの自信】	★ 読んできた絵本の中から自分の「お気に入り」の一冊を選んで、「おはなしたまてばこ」を作り、保育園の友達と関わりながら紹介することを通して、達成感や自信をもち、自分のよさや可能性に気付いている。 原小学校 資質・能力ルーブリック (レベル3)		
国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能	
○ 物語に描かれている世界に浸りながら読み、選んだ作品に対する思いが伝わるように紹介しようとしている。	◎ お気に入りの場面の様子について登場人物の行動や会話に着目して、想像を広げながら読んでいる。 (ウ)	○ お気に入りの場面とその理由を考え、紹介する絵本を選んでいる。 (カ)	○ 文の中における主語と述語の関係に注意し文章を読んでいる。 【イ(カ)】

3 単元の計画 (全15時間)

次	時	学 習 内 容	評 価			
			関	読	言	○教科の評価規準 (評価方法) ★資質・能力の評価規準 (評価方法)
単元前	0	課題設定 (2) ・ 来年度入学してくる保育園の友達のために、1年生としてできることを考える。 (生活科)				
1	1 2	・ 保育園の友達に、どのようにしてお気に入りの絵本を紹介するかを考え、学習の計画を立てる。	○			★ 自分がお気に入りの絵本を選び、保育園の友達に絵本を紹介する」という活動に意欲をもっている。 (児童観察) ○ 単元のゴールを理解し、お気に入りの絵本の「おはなしたまてばこ」を作って紹介することに意欲的に取り組もうとしている。 (児童観察)
2	3 4 5 6 7 8	情報の収集 (4) ・ 誰がどんなことをしたかや場面の様子を考え、想像を広げながら「サラダでげんき」を読む。 整理・分析 (2) ・ 「サラダでげんき」の登場人物を振り返り、お気に入りの場面を選ぶ。 【本時】 ・ 「サラダでげんき」のお気に入りの場面と理由を紹介し、友達と交流し合う。		◎	○	○ 主語・述語の関係に注意し、誰がどんなことをしたのか見付けながら読んでいる。 (ジャンボ教科書・児童観察) ◎ 登場人物の行動や会話に着目して、場面の様子を想像しながら読んでいる。(ワークシート・児童観察) ○ お気に入りの場面を全文から見付け、理由を考えている。 (付箋・児童観察) ○ 場面の様子や登場人物の行動や会話に着目して、想像を広げながら読み、自分のお気に入りの場面や理由を「お気に入りカード」にまとめて紹介している。 (「お気に入りカード」・児童観察) ★ 自分の「お気に入り」を自信をもって伝えるために、その理由を意欲的に友達と交流している。 (児童観察)
3	9 10 11 12 13 14 15	まとめ・創造・表現 (6) ・ 並行読書の中から自分のお気に入りの絵本を選び、「おはなしたまてばこ」を作る。 ・ 「おはなしたまてばこ」を使って、友達にお気に入りの絵本を紹介し、意見交流を行う。 ・ 「おはなしたまてばこ」を使って、保育園の友達にお気に入りの絵本を紹介する。 振り返り (1) ・ お気に入りの絵本を保育園の友達に紹介したことを振り返る。		○	○	○ 紹介する絵本の世界に浸りながら、お気に入りの場面とその理由を考え、「おはなしたまてばこ」を作っている。 (「おはなしたまてばこ」・児童観察) ○ お気に入りの場面や理由を聞き合い、感じ方や考え方を深め合っている。 (「おはなしたまてばこ」・児童観察) ★ 保育園の友達に、自分のお気に入りの絵本を自信をもって紹介している。 (児童観察) ○ 場面の様子や登場人物の行動や会話に着目して、お気に入りの場面や理由を紹介している。 (「おはなしたまてばこ」・児童観察)
単元後		・ 保育園の友達とのつながりを大切にし、「もうすぐ2年生 (あたらしい1ねんせい)をしょうたいしよう)」で交流を深める。 (生活科) ・ お気に入りの絵本を増やしたり、友達の紹介した絵本を読んだりして、読書(はらどく)を広げていく。				★ お気に入り絵本の紹介を振り返って、やりとげた達成感を味わい、自分のよさや可能性に気付いている。 (ワークシート) ○ 読書の楽しさを共有し、進んで紹介された本を読もうとしている。 (はらどくカード)

4 本時の展開 (本時8/15)

(1) 本時の目標

- ★ 自分の「お気に入り」を自信をもって伝えるために、その理由を意欲的に友達と交流することができる。 【資質・能力 自己理解・自らへの自信】
- 場面の様子や登場人物の行動や会話に着目して、想像を広げて読み、自分のお気に入りの場面や理由を「お気に入りカード」にまとめて紹介することができる。 【国語科 読むことウ】

(2) 本時の展開

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 (◆配慮を要する児童への支援)	評 価 規 準 教科の指導事項 (○) 資質・能力 (★) (評価方法)
つかむ	<p>1 前時までの学習を振り返る。</p> <p>2 本時のめあてを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の「お気に入り」を選び、付箋を貼った全文掲示を見て、様々な場面に「お気に入り」があることに興味をもたせる。 教師の「おはなしたまてばこ」を想起させ、「お気に入りカード」を提示する。 	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> じぶんの 「お気に入り」を </div> } <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block; margin: 0 10px;"> ともだちに つたわるように </div> } <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> しょうかいしよう。 </div>		
考える	<p>3 「お気に入りカード」の書き方を確かめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> まず、学級の友達を納得させる紹介の仕方を学び、保育園の友達に分かりやすく紹介するというゴールへの目的意識をもって活動に向かわせる。 「お気に入りカード」の書き方の手順を示しながら、確認させる。 <ol style="list-style-type: none"> ①お気に入りの場面の1番好きなところに線を引く。 ②誰が、どうした(何と言った)場面か、カードに書く。 ③お気に入りの理由を書く。 ◆自分の思いを込めて理由付けができるように、「お気に入り言葉」の例を掲示する。 ◆「自分だったら?」と想像させたり、「前に同じようなことがなかったか?」と経験を思い出させたりすることで、理由につながる思いを引き出す。 	
深める	<p>4 お気に入り場面と理由をまとめて「お気に入りカード」を書く。</p> <p>5 お気に入り場面と理由を紹介する。 (1) 同じ場面を選んだ友達同士で紹介する。 (2) 違う場面を選んだ友達同士で紹介する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 友達の紹介を聞いて、更に読みを深めたり、お気に入りの理由には、共通点・相違点があるのでおもしろいことを感じ取らせたりする。 	<p>★ 自分の「お気に入り」を自信をもって伝えるために、友達とその理由を意欲的に交流している。(児童観察)</p>
まとめる	<p>6 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の「お気に入り」は友達に伝わりましたか。 「お気に入り」の理由がもっと詳しくなった人はいいますか。 <p>〈まとめの例〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ぼくは、アフリカぞうが スプーンを はなで にぎって、かつよく くりん くりん と まぜるところが すきです。 わけは、<u>かつこい</u>い からです。 </div> <div style="margin-left: 100px; margin-top: 10px;"> { それに、ぼくが、 つくった ときは、 あじが しなかつた けれど、 よく まぜていて おいしく なると おもった からです。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 意見交流を活かして、「お気に入りカード」を修正させる。 理由がよく伝わるように修正できた例があれば取り上げる。 	<p>○「お気に入り」を相手に伝えるために、登場人物の行動や会話に着目して、場面の様子を想像しながら読み、お気に入りの場面と理由をまとめている。 (「お気に入りカード」, 児童観察)</p>
	<p>7 本時を振り返り、保育園の友達に紹介したい絵本の「お気に入り」を見付ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「お気に入り」場面を見付け、友達に思いが伝わるように理由を考えながら付箋を貼らせる。 	

5 板書計画

「おきなをうまじくして」
 おきなをいりの ぼめんを ぼいへんの ちがはなを ちがはなを ちがはなを
 サラダで げんき
 かじの えいこ

めあて
 じぶんの「おきに入り」を
 ともだちに つたわるように
 しょうかいしよう。

①おきにいりの ぼめんの 一ばん すきな ところに せんを ひく。
 ②おきにいりの ぼめんを かく。
 だが
 じつじや
 なまじいこと

③おきにいりの わけを かく。
 わたしは「のらね」が
 「かつおぶしを 入れると いいで
 すよ。」
 と おしえてくれた ぼめんが
 すきです。
 わけは「すいじ」からです。
 ?
 かつおぶしは、おさかなばわあで
 木のぼりが できるくらい げんき
 になるし、たこやきに かけたと
 きに ほんとうに おいしかったか
 らです。
 わたしは、こんな ことを おも
 いつかなかったからです。

わはは
 だからです。
 ○○が
 「おきなをうまじくして」
 「おきなをうまじくして」
 「おきなをうまじくして」

いろいろな おきに入りがある。
 ・わけを きくと
 おきに入りがよく わかる。
 ・おなじ おきに入り でも
 わけが ちがって いて
 おもしろい。

おきなをうまじくして
 ●おまじい ●たごころ
 ●かんど
 ●あんしん
 ●じげんを
 ★もし、じげんをうまじくして...
 ★まじい、じげんも...

まとめの例
 ぼくは、アフリカぞうが スプーンを はなで にぎって、力つよく くりん くりん
 と ませる ところが すきです。
 わけは、かつこいい からです。

それに、ぼくが つくった とき、あじが しなかった けれど、
 よく ませて いて、おいしく なると おもった からです。